

## 財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

##### ① その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は正味財産増減額として処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

#### (2) 固定資産の減価償却方法

##### ① 有形固定資産

定率法

なお主な耐用年数はつぎのとおりであります。

建物付属設備 10年

器具備品 4～15年

##### ② 無形固定資産

定額法 耐用年数5年

#### (3) リース取引の処理方法

リース物権の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっております。

#### (4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっております。

### 2. 基本財産の増減及びその残高

基本財産の増減額及びその残高は、次のとおりであります。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
定期預金	42,500,000	-	-	42,500,000
投資有価証券	7,500,000	-	-	7,500,000
合 計	50,000,000	-	-	50,000,000

### 3. 特定資産の増減及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりであります。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
公益事業積立資産	0	2,500,000	-	2,500,000
合 計	0	2,500,000	-	2,500,000

### 4. 基本財産の財源等の内訳

基本財産の財源等の内訳は、次のとおりであります。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
定期預金	42,500,000	-	(42,500,000)	-
投資有価証券	7,500,000	-	(7,500,000)	-
合 計	50,000,000	-	(50,000,000)	-

### 5. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりであります。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
公益事業積立資産	2,500,000	(2,500,000)	-	-
合 計	2,500,000	(2,500,000)	-	-